

報道機関各位

令和8年（2026年）3月25日

News Release

観光部コンテンツ開発担当課長

八幡坂マナー啓発業務の実施報告および意見交換会の開催について

本市では、観光客による八幡坂でのマナー違反の実態把握およびマナー啓発を行うため、「八幡坂マナー啓発業務」を実施し、別紙のとおり、実施内容と結果を取りまとめた事業資料を公表いたしますのでお知らせいたします。

また、関係者間での共有と、今後の対策に向けた意見交換会を下記のとおり開催しますので、取材報道方よろしくお願いたします。

記

<事業資料>

- 事業名 八幡坂マナー啓発業務
- 巡回期間 令和7年9月1日～令和8年2月27日
- その他 詳細は別紙をご参照ください。

<意見交換会>

- 日時 3月26日（木） 14時～15時
- 会場 函館市消防本部 2階会議室（函館市東雲町5-9）

函館市観光部観光推進課コンテンツ開発担当 山口，廣部
TEL 21-3479

令和7年度 八幡坂マナー啓発業務 報告書



令和8年2月

委託者：函館市

受託者：一般財団法人 北海道国際交流センター

目次

1. 事業概要	2
2. 巡回・啓発方法	3
3. 事業実績・所見	6
4. 今後の対策（展望）	21

1. 事業概要

■ 事業目的

八幡坂には国内旅行者のみならず、中国や台湾などのアジア圏を中心に訪日外国人旅行者も多く訪れているなか、長時間におよぶ車道での写真撮影や私有地への立ち入りなどのマナー違反が地域住民の生活環境を悪化させていることから、本業務では、八幡坂一帯をスタッフが巡回し、旅行者に対してマナー啓発およびヒアリング調査を行うことで、旅行者マナーの向上を図り、地域住民の生活環境の改善に向けた取り組みを行う。

■ 業務内容

八幡坂において、マナー啓発を促すスタッフ2名を以下の巡回時間において巡回し、旅行者に対してマナー啓発およびヒアリング調査などを実施する。

また、2月13日以降の17時は夜景観賞を目的に来訪者が増えることが見込まれる二十間坂においても、同様の業務を実施する。

- ① 巡回期間： 令和7年9月1日～令和8年2月27日
- ② 場 所： 八幡坂一帯 ※2月12日からは17時の巡回にのみ二十間坂を追加。
- ③ 内 容： マナー違反が見られる国内および外国人旅行者に対して以下の啓発を実施。
 - (1) 長時間におよぶ車道での撮影など、車の通行を妨げないこと
 - (2) ごみのポイ捨てをしないこと
 - (3) 私有地に勝手に立ち入らないこと
- ④ 巡回時間：

(1) 9月1日～11月30日
・11時～11時30分
・13時～13時30分
・15時～15時30分
・17時～17時30分 計4回

(2) 12月1日～2月10日
・9時～9時30分
・10時～10時30分
・11時～11時30分
・13時～13時30分
・14時～14時30分
・15時～15時30分
・16時～16時30分
・17時～17時30分 計8回

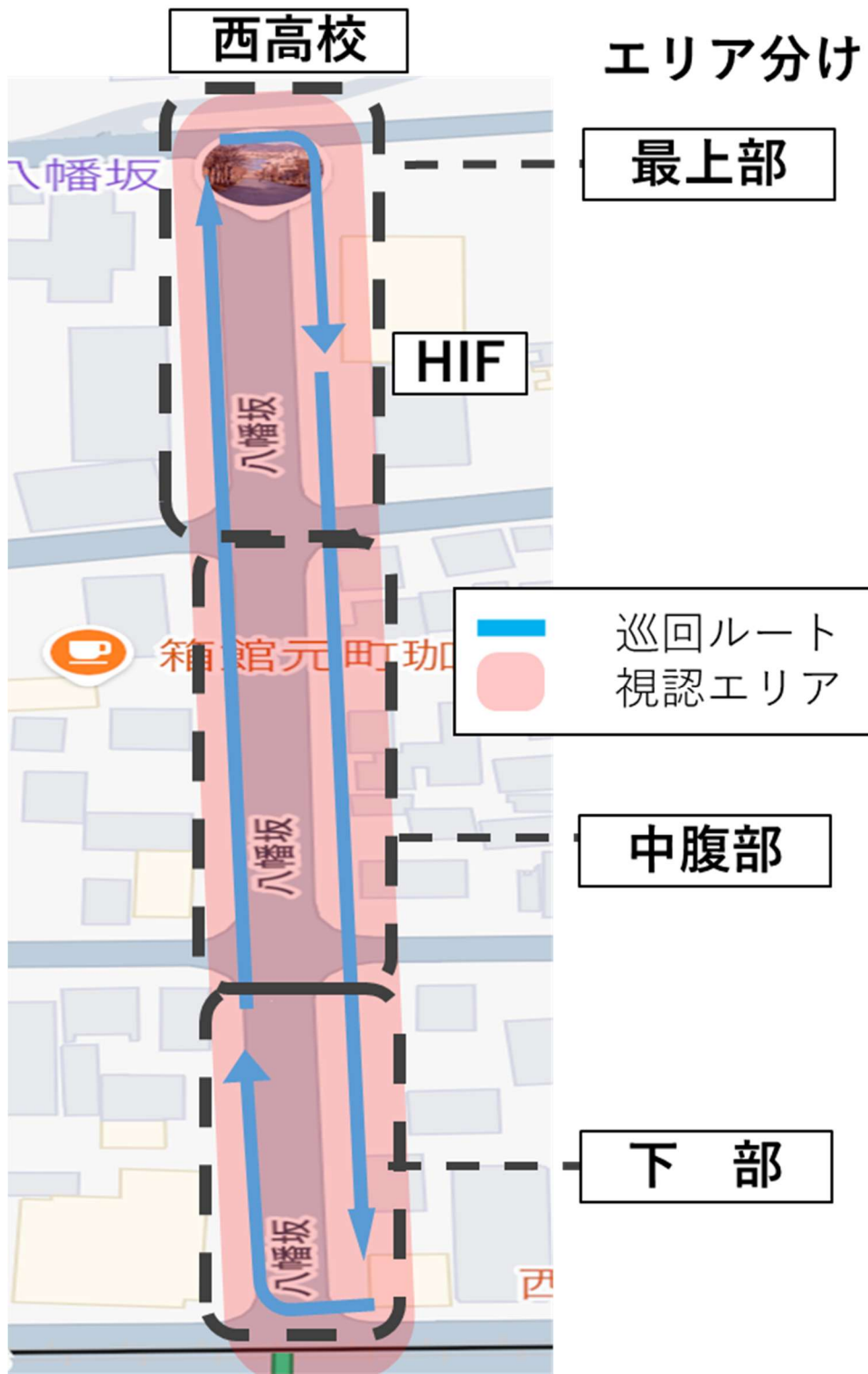
(3) 2月12日～2月27日
・11時～11時30分
・13時～13時30分
・14時～14時30分
・15時～15時30分
・16時～16時30分
・17時～17時30分 計6回
※17時の巡回は二十間坂を含む

2. 巡回・啓発方法

●八幡坂

英語対応可能なスタッフが、1日4回～8回程度八幡坂を巡回し、マナー違反があれば注意するほか、坂の上部・中腹部・下部にいる人数なども調査した。

<八幡坂一帯のエリア分け>



●二十間坂

英語対応可能なスタッフが、1日1回二十間坂を巡回し、マナー違反があれば注意するほか、坂の上部・中腹部・下部にいる人数なども調査した。

<二十間坂一帯のエリア分け>



ステップ1：八幡坂各エリア調査

●八幡坂の各エリアにおいて、以下の項目を記録する。

- ① 各エリア一帯の人数（最上部、中腹部、下部）
- ② ①の内、属性別人数（日本、アジア、欧米）
- ③ ①の内、歩道または車道の人数
- ④ 団体数（旗振りや添乗員の数）



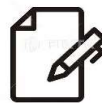
ステップ2：巡回マナー啓発

●以下の巡回ルートにより巡回し、マナー違反が見られた場合に啓発を実施。

マナー違反：長時間の写真撮影、ごみのポイ捨て、私有地侵入 等

●啓発をした際には、以下の内容を記録する。

- ① 啓発の種類（写真撮影、ポイ捨て、私有地侵入 その他）
- ② 人数
- ③ 旅行形態（個人、団体）
- ④ 国籍（日本、アジア、欧米）



●その他

・巡回は以下のジャケットを装備して実施。

・トラブルが発生した場合には「①警察に通報」「②市役所に連絡」をすることとした。



スタッフジャケット



3. 事業実績・所見

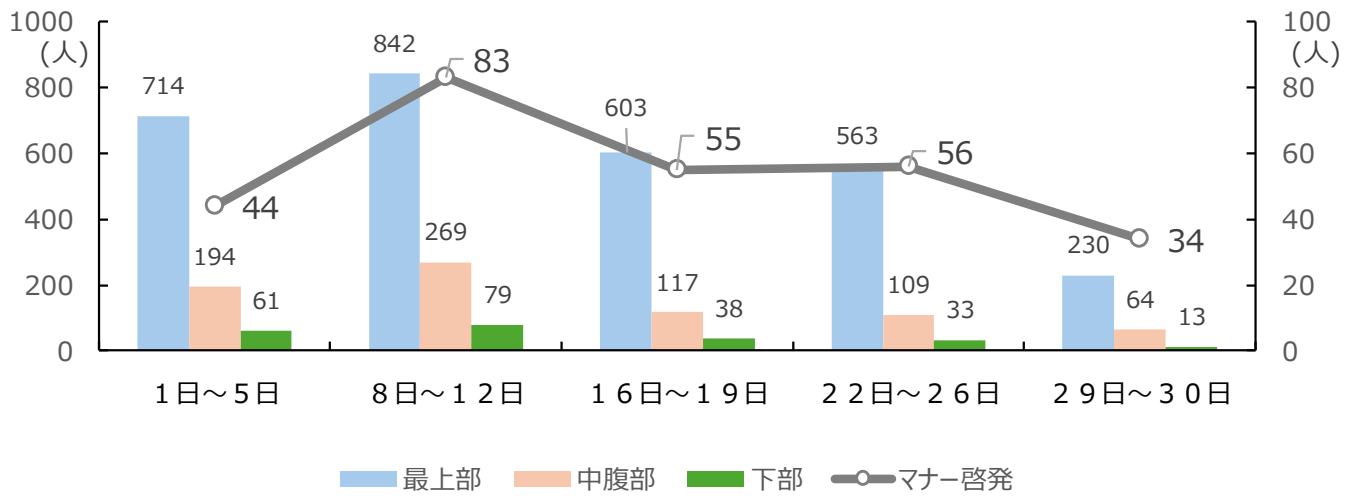
<調査・啓発記録の概要>

●全体概要

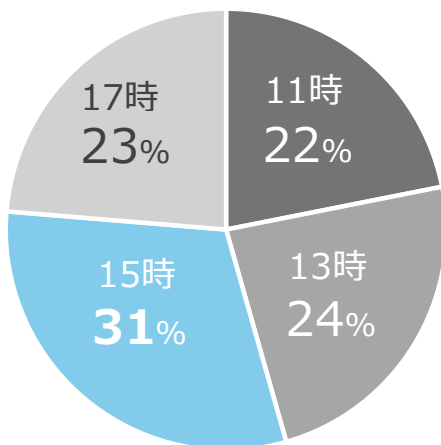
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
八幡坂滞在人数（人）						
最上部	2,952	2,173	899	1,481	3,663	11,382
中腹部	753	739	370	983	1,906	4,089
下部	224	299	202	369	1,408	2,304
マナー啓発人数（人）						
啓発した人数	272	402	60	500	1,138	2,963
時間帯別滞在割合【最上部】（%）						
9時～9時30分	-	-	-	7	5	1
10時～10時30分	-	-	-	8	7	5
11時～11時30分	22	32	29	11	14	13
13時～13時30分	24	26	27	22	16	18
14時～14時30分	-	-	-	18	17	17
15時～15時30分	31	31	33	25	20	22
16時～16時30分	-	-	-	5	14	15
17時～17時30分	23	11	11	4	7	9
啓発割合（属性別）（%）						
日本	74	45	62	19	17	29
アジア	24	49	38	81	83	70
欧米	2	6	0	0	0	1
啓発場所の割合（%）						
最上部	98	100	87	64	59	72
中腹部	2	0	13	34	31	21
下部	0	0	0	2	10	7
啓発内容の割合（%）						
写真撮影	89	91	69	97	95	86
私有地侵入	11	6	31	3	5	14
ゴミのポイ捨て	0	3	0	0	0	0

● 9月実施概要

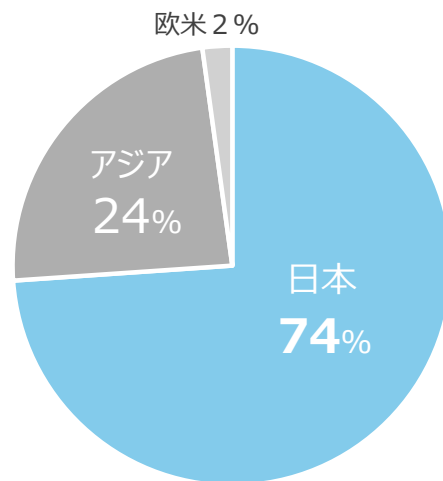
○ 調査時点の滞在人数と啓発人数



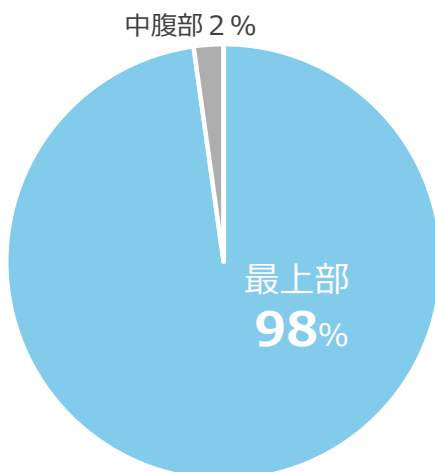
○ 時間帯別の滞在割合



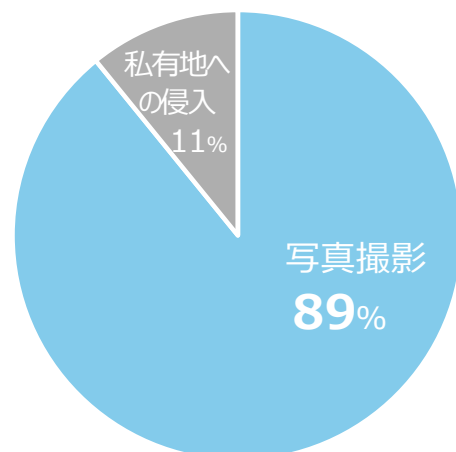
○ 啓発割合 (属性別)



○ 啓発場所の割合



○ 啓発内容の割合



● 9月の巡回における所見

修学旅行や国内観光客を中心に一定数の来訪が見られた一方、天候不良による巡回中止日もあり、日によって人出にばらつきが見られた。

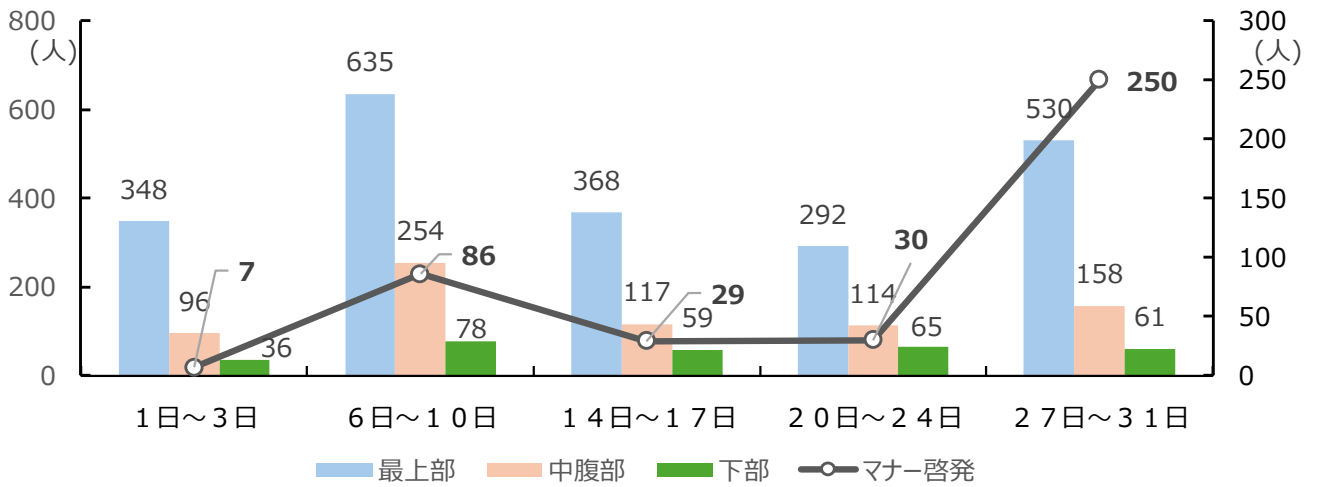
滞在者は最上部に集中する傾向が顕著であり、啓発内容の大半は車道上での写真撮影に関するものであった。特に15時以降の時間帯に滞在者が増加し、車両と歩行者の交錯が頻発した。また、一部では私有地への立ち入りも確認されており、坂の景観に集中するあまり、周囲への配慮が不足している状況がうかがえた。

一方、巡回スタッフによる声掛けに対しては概ね理解が得られ、初期段階としてマナー啓発の必要性和有効性が確認された月であった。

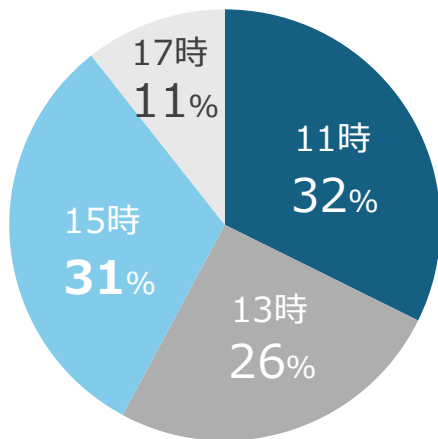


● 10月実施概要

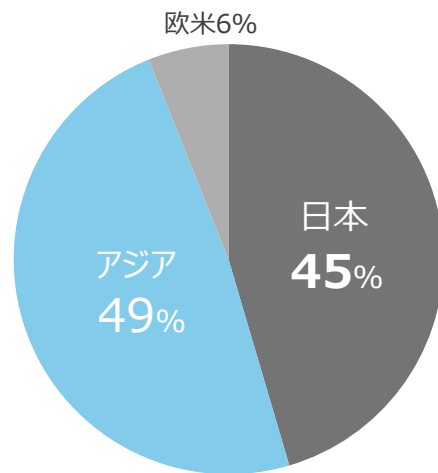
○ 調査時点の滞在人数と啓発人数



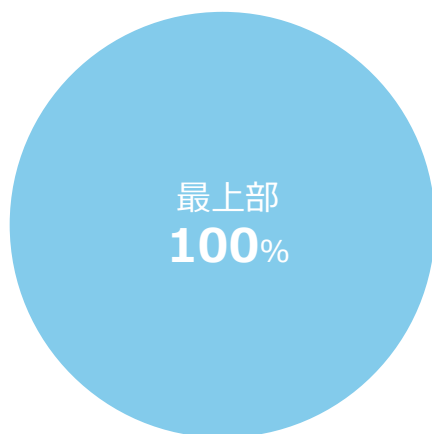
○ 時間帯別の滞在割合【最上部】



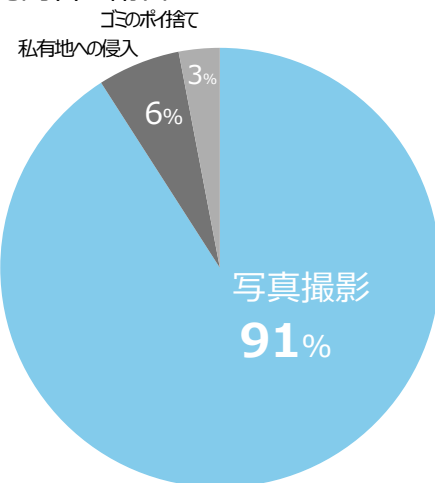
○ 啓発割合 (属性別)



○ 啓発場所の割合



○ 啓発内容の割合



● 10月の巡回における所見

クルーズ船寄港も増え、国内外からの観光客が増加し、巡回期間全体を通して比較的多い人出が確認された。

特に最上部エリアへの滞在が集中し、啓発実施場所のほぼ全てが最上部であったことから、撮影スポットとしての認知が強く影響していると考えられる。

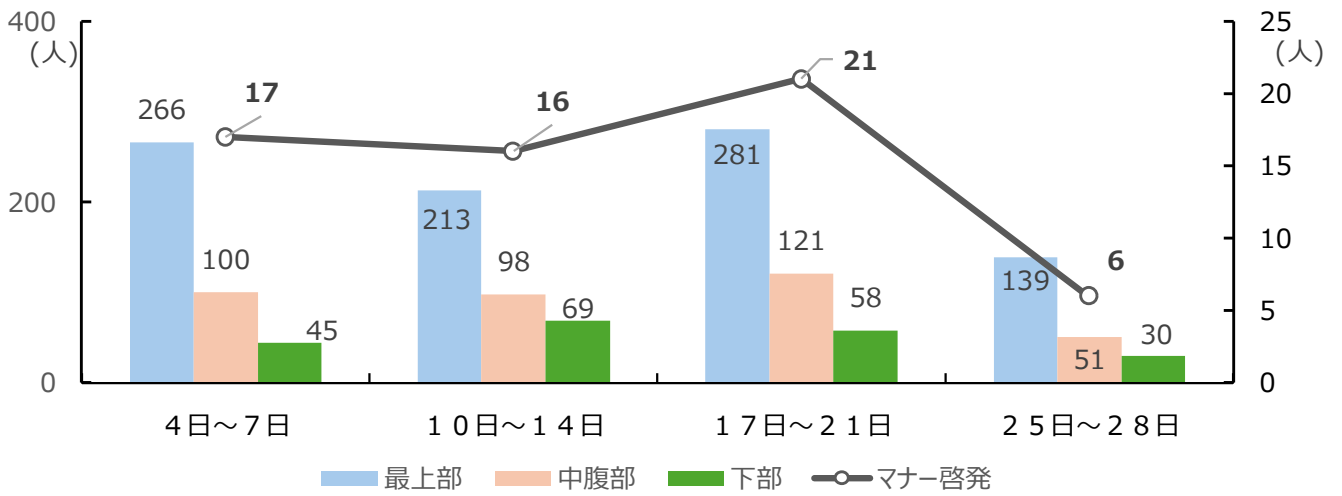
啓発内容では、写真撮影に関する注意が9割以上を占め、私有地侵入やごみのポイ捨ては限定的であった。また、アジア圏からの旅行者への啓発割合が増加しており、多言語対応を含めた巡回体制の重要性が明確となった。

巡回による抑止効果も一定程度見られ、啓発活動が現場対応として有効であることが確認された。

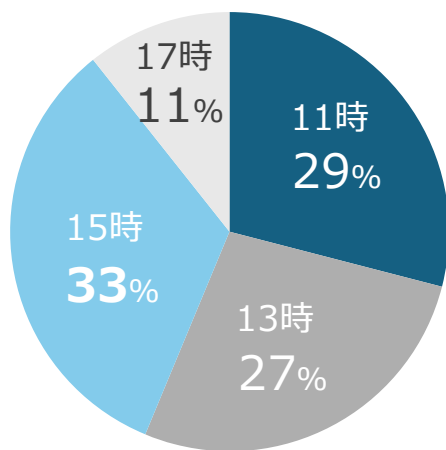


● 11月実施概要

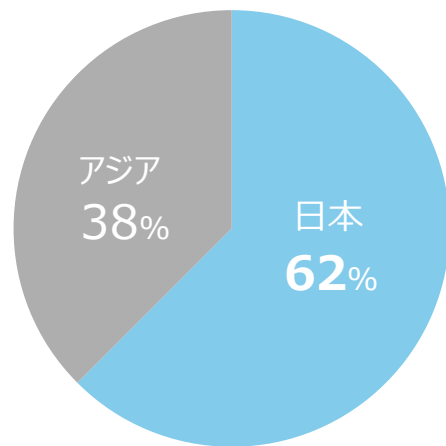
○ 調査時点の滞在人数と啓発人数



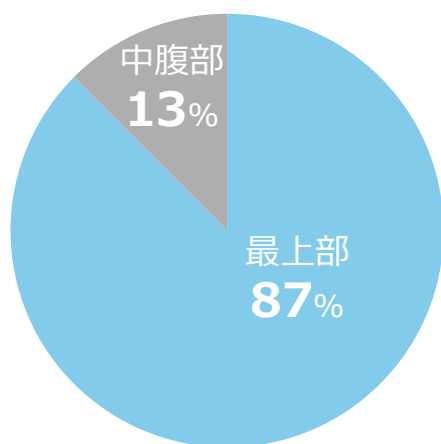
○ 時間帯別の滞在割合【最上部】



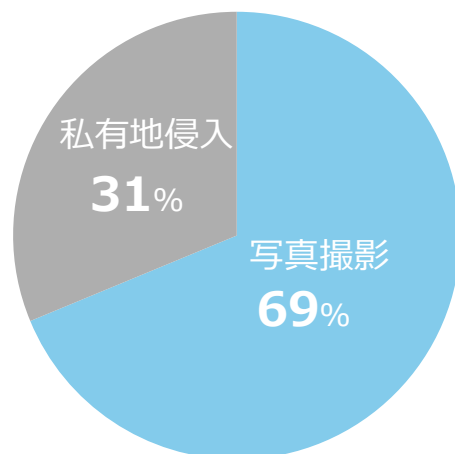
○ 啓発割合 (属性別)



○ 啓発場所の割合



○ 啓発内容の割合



● 11月の巡回における所見

観光の閑散期に入り、全体的な滞在人数は減少したものの、時間帯によっては一定の集中が見られた。滞在エリアは引き続き最上部が中心であったが、中腹部での滞在や啓発が前月より増加しており、撮影行為が坂全体へ広がっている傾向が確認された。

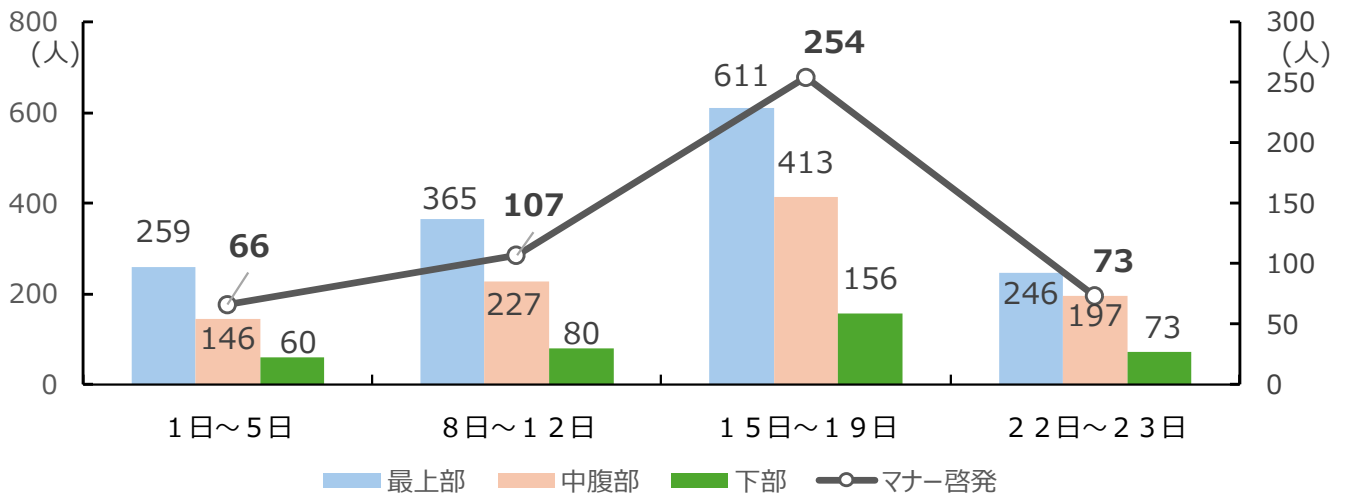
啓発内容としては写真撮影に加え、私有地侵入の割合が相対的に高くなっており、人の少ない時期ほど行動範囲が拡大する傾向が見受けられた。

少人数での観光が中心となる中でも、巡回による声掛けは一定の抑止効果を持ち、継続的な対応の必要性が再確認された。

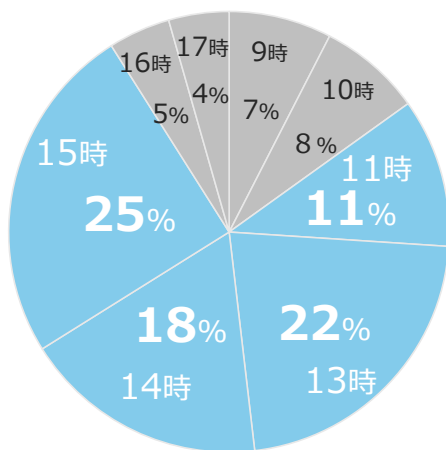


● 1 2月実施概要

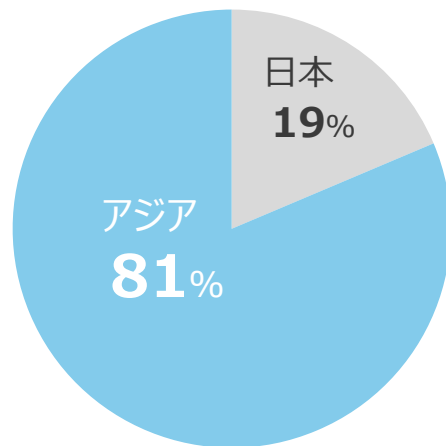
○ 調査時点の滞在人数と啓発人数



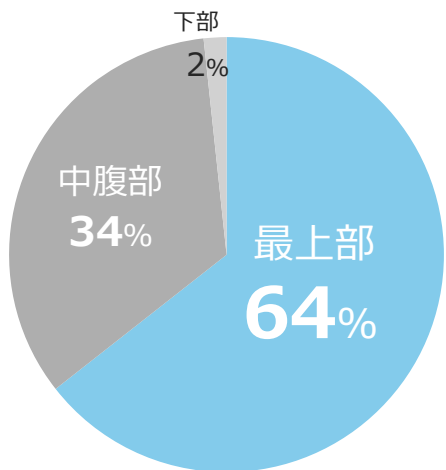
○ 時間帯別の滞在割合【最上部】



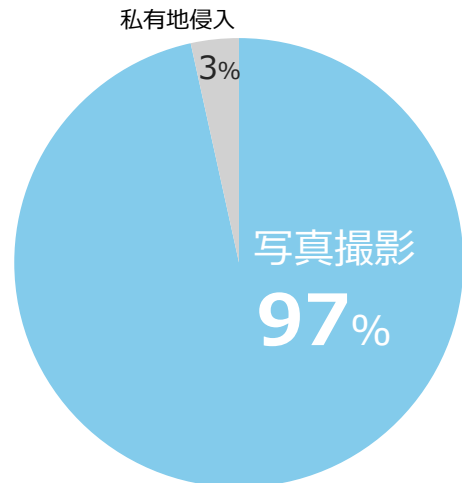
○ 啓発割合 (属性別)



○ 啓発場所の割合



○ 啓発内容の割合



● 12月の巡回における所見

年末観光の影響により、外国人旅行者、とりわけアジア圏からの来訪が急増した。

最上部エリアへの集中は続く一方、中腹部での滞在割合も大きく増加し、啓発実施場所が分散する傾向が見られた。

啓発内容の大半は車道上での写真撮影に関するものであり、車両通行への影響が顕著であった。

巡回時間帯では、午前中から午後にかけて幅広い時間帯で人出が見られ、従来よりも長時間にわたる注意喚起が必要な状況であった。

年末期特有の観光集中に対応するため、柔軟な巡回体制の重要性が明らかとなった。

※今月は巡回中に私有地侵入（西高校入り口）が見られた観光客に対してヒアリングを実施。

以下レポートのとおり。



巡回時のヒアリングレポート

私有地侵入の多くは西高校入り口であり、また、進入禁止看板（日本語・英語）があるものの侵入が見られるため、侵入した一部の旅行者にヒアリングを実施。

【概要】

日本人

Q.なぜ、高校の私有地に入ったのか？

A.老眼で字が見えていなかった→約5人

A.写真を撮るのに集中してしまっていて、看板に気づかなかった→約10人

中国人

Q.なぜ、高校の私有地に入ったのか？

A.看板があるのに気づかなかった→約8人

A.入っても良いだろうと思った→約5人

A.他の人も立ち入っていたから→約3人

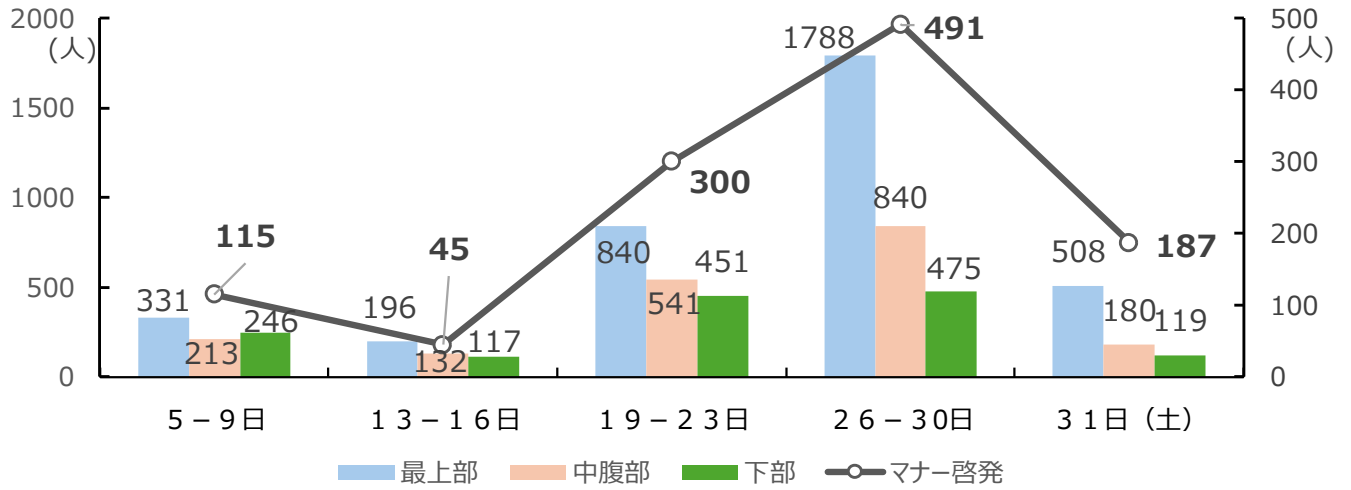
A.チェーンやコーン等置いていなかったから入ってしまった→約2人

レポート結果

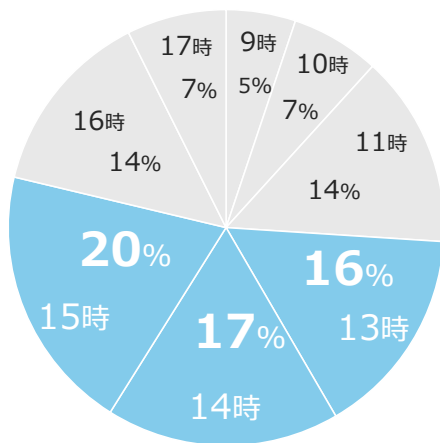
西高に侵入してしまった人の層は、日本人・中国人がほとんどでした。
引き続き行っていきたいと思います。

● 1月実施概要

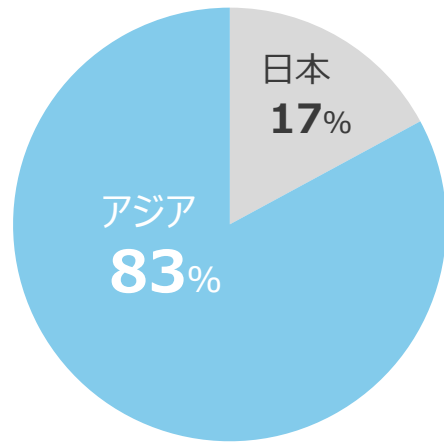
○ 調査時点の滞在人数と啓発人数



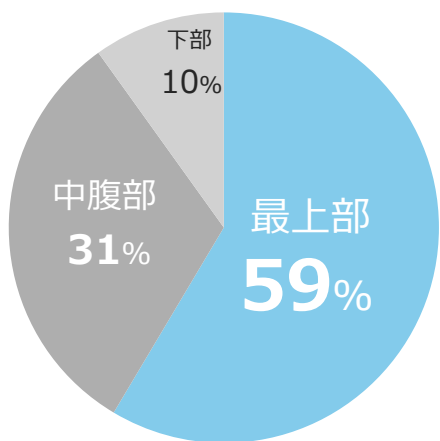
○ 時間帯別の滞在割合【最上部】



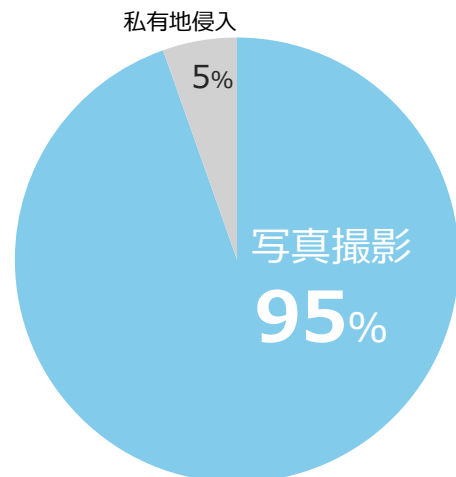
○ 啓発割合 (属性別)



○ 啓発場所の割合



○ 啓発内容の割合



● 1月の巡回における所見

年始休暇や冬季観光の影響により、今までの調査期間で最も多くの滞在者が確認された月であった。最上部への集中はやや緩和されたものの、中腹部および下部での滞在が増加し、八幡坂全体が撮影・滞在空間として利用されている状況が見られた。

啓発対象の多くはアジア圏の旅行者であり、写真撮影に伴う車道滞留が主な課題であった。

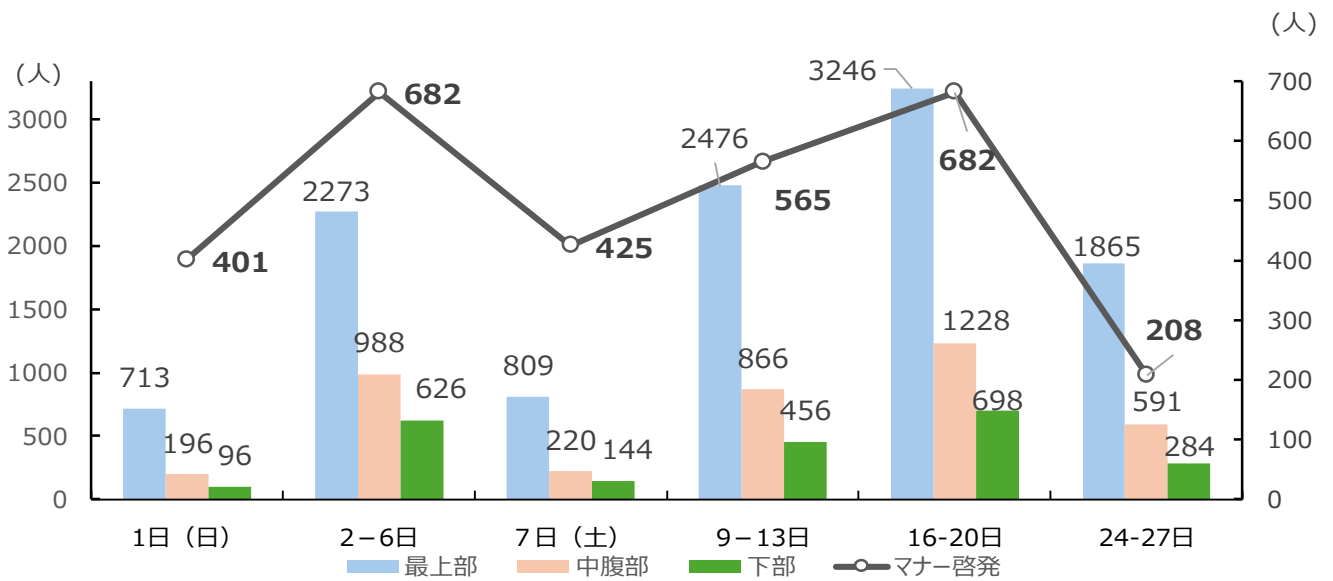
巡回スタッフによる即時の声掛けにより、大きなトラブルは回避されたが、人的対応のみでは限界があることも同時に浮き彫りとなった。

今後は空間設計や交通誘導を含めた総合的対策の検討が必要である。

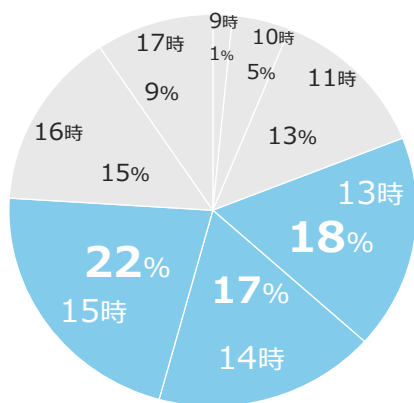


● 2月実施概要

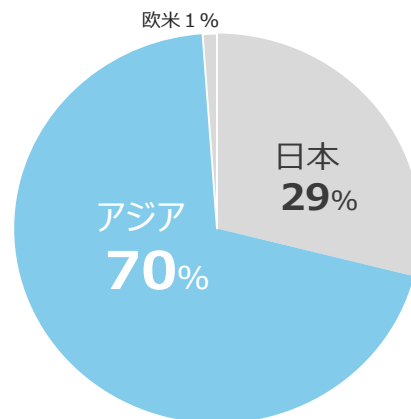
○ 調査時点の滞在人数と啓発人数



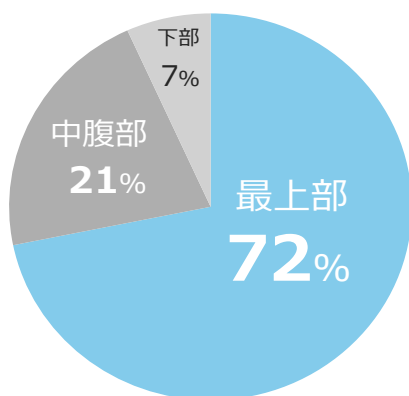
○ 時間帯別の滞在割合【最上部】



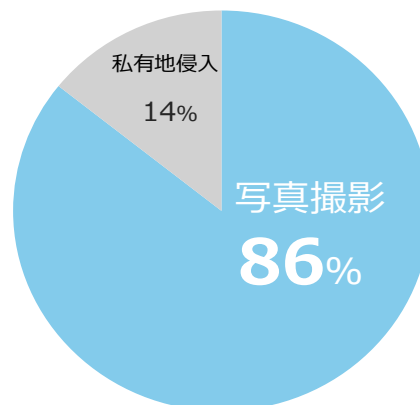
○ 啓発割合 (属性別)



○ 啓発場所の割合



○ 啓発内容の割合



●二十間坂（2/12～2/27 17:00～17:30）巡回実施結果

- ・マナー啓発数：実施期間中での啓発なし
- ・滞在記録：同時期の八幡坂との比較

	最上部	中腹部	下部
二十間坂	311	125	76
八幡坂	613	166	38

●2月の巡回における所見

<八幡坂について>

中華圏旧正月が近づくにつれ、徐々に観光客が増加し、天候によっては一時的に集中する時間帯が発生した。滞在エリアは引き続き最上部及び中腹部が中心であり、啓発内容も写真撮影に関するものが大半を占め、写真撮影時間が30分におよぶなど、長時間の滞りがみられた。

国内観光客に加え、中国・台湾などアジア圏を中心とした外国人観光客の来訪も多く確認され、車両通行時においては、一時的に歩行者が車道上に滞留している場面も確認された。

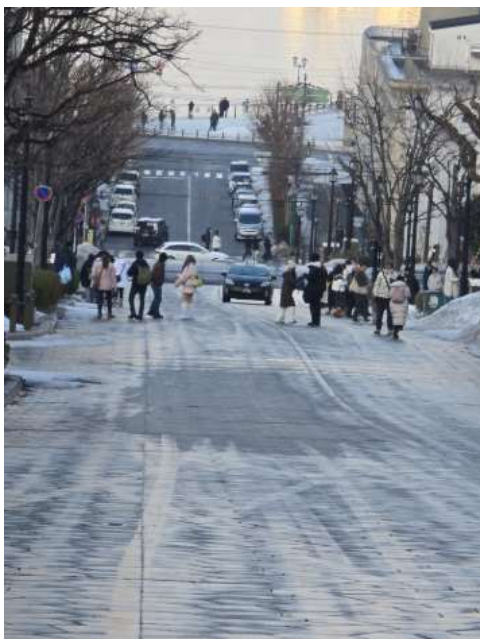
巡回スタッフによる声掛けを行うことで大きなトラブルや事故は発生しなかったものの、観光客の増加に伴い、車道での撮影や歩行者の滞留など安全面への配慮が必要な状況が一定程度見られた。

<二十間坂について>

2/12から、17時～17時30分に巡回を行った。写真撮影を行う方はいたものの、長時間写真を撮るのではなく、短時間で写真を撮られており、マナー啓発に至るほどではなかった。その他のマナー違反も見られず、実施期間中に行ったマナー啓発件数は0件であった。

連休や春節などでバラつきはあるものの、人通りがあったが、歩道を使う人がほとんどであった。

<八幡坂の様子>





<二十間坂の様子>



4. 今後の対策（展望）

「令和7年度 八幡坂マナー啓発業務」と本業務を通じ、令和7年9月から令和8年2月にかけて実施したマナー啓発から、八幡坂では写真撮影などの観光目的での来訪者が多く、特に坂の最上部を中心に、交通の妨げとなる撮影のマナー違反が確認され、八幡坂が交通道路であることを考慮すると、観光需要と生活利用が集中している構造的な課題があった。

一方、本業務において実施した二十間坂では、函館山からの夜景観賞を目指して来訪者が増加する時間帯を見込み巡回を行ったものの、八幡坂への来訪者数の約半数程度の来訪であり、観光客等によるマナー違反は確認されなかった。

このことについて、今年度は二十間坂でのライトアップがなかったことや、函館山ロープウェイの動線上であるため、写真撮影目的で訪れる場所と認識されていない可能性が考えられる。

今後は、八幡坂において引き続き巡回による人的対応を継続しつつ、以下の観点から段階的かつ総合的な対策を講じる必要があると考える。

① 重点時間帯・重点エリアを意識した巡回体制

巡回および調査の結果、滞在者およびマナー啓発の多くが 11 時～15 時 30 分頃の時間帯に集中していることが確認された。また、撮影行為や滞留は 坂の最上部付近に集中する傾向が見られた。

このことから、今後は来訪者が集中する時間帯やクルーズ船寄港日などの観光需要の高まりに応じて巡回回数や人員配置を柔軟に調整し、最上部を中心としながら中腹部・下部にも目配りを行う巡回体制が望ましい。

② 多言語ツールによる効果的なマナー啓発

現在、函館市では「車の通行を妨げない」「ポイ捨て禁止」「私有地に立ち入らない」の 3 項目について多言語によるマナー啓発パネルを設置しているが、来訪者の行動や視線の動きと必ずしも一致していない場合があると考えられる。

そのため、パネルの設置位置や高さなどについて来訪者の視線導線を踏まえた配置の見直しを行うことで、より効果的な啓発につながる可能性がある。

また、写真撮影に集中している来訪者に対しては掲示物のみでは注意が届きにくい場合もあるため、音声による注意喚起などを組み合わせることで、より実効性の高いマナー啓発が期待される。

さらに、「車の通行を妨げない」というルールについては、撮影行為そのものを禁止するものではなく、安全に撮影してもらうことを目的とした内容であることから、その意図が来訪者に分かりやすく伝わるよう、表現や案内方法を工夫することが望まれる。

③ 人的対応と仕組みづくりの両立

巡回スタッフによる声掛けは即効性のある対策である一方、人的対応のみでは継続的な対応に限界がある。八幡坂は写真撮影スポットとして広く認知されていることから、撮影を前提とした観光行動を踏まえ、安全性と観光満足度の両立を図る観点から、撮影に適した場所や滞留可能な場所を示すなど、来訪者の行動を誘導する仕組みの検討も重要である。

また、八幡坂は地域住民や学校関係者が利用する生活道路でもあることから、観光利用と生活動線の両立を図るため、関係機関や地域と連携した取り組みも必要と考えられる。

④ 継続的な状況把握とデータの活用

本事業で得られた滞在人数、啓発内容、時間帯別傾向などのデータは、今後の施策検討における基礎資料となるものである。

今後も巡回や調査を通じて状況を継続的に把握し、データの蓄積と分析を行うことで、より効果的な対策の検討が可能になると考えられる。また、行政、観光関係者、地域住民等が情報を共有しながら取り組みを進めていくことが重要である。

(総括)

本事業においては、巡回によるマナー啓発および来訪者の状況把握を通じて、八幡坂における観光客の行動傾向や時間帯別の滞在状況、マナー違反の発生状況などを継続的に確認することができた。また、巡回スタッフによる声掛けを行うことで、大きな事故やトラブルの発生を未然に防ぐとともに、一定の抑止効果が確認された。

八幡坂は函館を代表する観光景観の一つであると同時に、地域住民の生活道路として利用されている場所でもあることから、観光と生活環境の調和を図る視点での対応が重要である。今後も巡回による状況把握とマナー啓発を継続するとともに、本事業で得られたデータや知見を活用しながら、関係機関や地域と連携した総合的な取り組みを進めていくことが望まれる。